

石狩地区 新規就農者紹介



【赤川さんご家族】

【就農のきっかけ】

祖父母が近隣で農業を営んでおり、もともと農業に関心があったことから、大学卒業後は長野県の農業法人へ就職しました。

そこで農業の知識を学んでいく中、職場の同期が独立し始め、触発されるような形で自分も独立したいという思いが強くなりました。同農業法人では独立支援も行っていることから独立を決意し、退職後は恵庭市で3年間の研修を経て就農しました。

【工夫している点】

『契約は絶対切らせない』をモットーに、収穫作業はパート従業員さんに任せ、自分は作物の生育環境の調整に注力しています。

また、毎日の作業指示をホワイトボードに書き込み、それを見て従業員自らが作業分担を決める体制を作っています。

あかがわファーム 赤川篤志さん（恵庭市）

2026年9月取材

就農年：2020年

経営形態：露地栽培

作物：レタス、キャベツ、
ネギ、パクチー等（約10ha）

出荷先：契約企業、
恵庭農畜産物直売所かな



AKAGAWAFARM2020

↑
あかがわファームInstagramはこちらから

【年間スケジュール】

作物にもよりますが、3月の雪解け後から種まき・植え付けを行います。5月末ごろから最初の収穫を始め、同時並行で種まき・植え付けを繰り返します。

8月10日頃に種まきを終了して、8月末には植え付け作業も終了です。ここから降雪前までの間は、収穫作業が続きます。

雪が降り始める12月には除雪のアルバイトを行いつつ、家族で旅行に出かけます。

1月頃から前年の反省と当年の計画策定を行い、ハウスの除雪作業をはさんで、種まき・植え付けが始まります。

【就農して良かったこと・苦労したこと】

良かったことは、新鮮な野菜を家族に食べさせられることができ、またお客様にも届けられることです。

また、直売所では良いものを出すと売れ、品質が劣ると売れないなど、作物の出来によってお客様の反応が変わる点にやりがいを感じます。

苦労したことは、1人で0からスタートしたため、忙しくて時間に追われたことや、せっかく作った作物が売れなかったりしたこと。また、天候の影響を受けやすいので、夏場の暑さで思うように生育しなかった際には、取引先に迷惑がかからないように奔走したりと、様々な苦労を経験をしました。

【地域との関わり合い】

消防団に入団して地域貢献に携わっています。

また、農協青年部にも加入していて、意欲的な先輩とともに地域農業を盛り上げていきたいと思っています。

恵庭市は都市近郊に位置しており、子育てもしやすい環境にあるため、とても気に入っています。

【活用した事業等】

- ・経営開始資金(1年間)
- ・青年等就農資金



【レタス栽培に使用する種機】



【サニーレタス(左)と
リーフレタス(右)】



【定植したてのレタス】



【パクチーを栽培する赤川さん】

【サポート体制について】

道央農業振興公社から研修先を紹介してもらいました。そこで、新規就農で困ったことを相談できました。また、法人化を検討しており、詳しい方に相談をする機会もありました。いただいたアドバイスやこれまでの知識を活かしながら、当地での栽培体制を習得することができました。

【今後の展望】

「目指せ売り上げ〇億円!」

ただ、今の規模だと達成は難しいので、経営の法人化や作付品目の追加等を頑張っていきます。そのために、土地の取得や従業員の確保・育成をしていきます。規模を大きくしようとすると資金面が大変になりますが、努力と根性で頑張ります。



【娘さんと一緒に取材を受けている赤川さん】



【あかがわファームのロゴ】

ロゴの文字は息子さんの手書きとなっています。
直売所ではこのロゴが目印です。

【就農を目指している方へのアドバイス】

「簡単にはいかないけれど頑張れ!」ですかね。本当に頑張るしかない。ただその中でも、研修中にいろいろな経験をしたり、農作業に集中できる環境を整えたりと事前にできることはあると思います。何もわからないまま飛び込むのではなく、栽培技術を身に付けてから就農したほうが良いです。

就農して間もない時期が一番忙しく、うまくいかないことが多いです。研修中の失敗とは違い、農家になってからの失敗は負債に直結してしまいます。自分も負債を出してしまい、融資に助けられました。

就農後は健康が大事なので、「無理せず手は抜かず」それに、調子に乗らず慎重にお金を使うことも大切です。

初期投資額が年々大きくなってきており、就農のハードルが上がっているため、金銭面でもしっかり準備しておく必要があります。